



手話応援デー

障がいのある人もない人も一緒に大宮アルディージャを手話で応援しようと、2006年からスタート。一時中断時期はあったが、2020シーズンで12回目を迎えるクラブの代表的な社会連携活動のひとつ。当日は、スタンドでの応援だけでなく啓発、手話体験、聴導犬等PRのブースもあり、スタジアム全体が手話応援に関わることができる仕組みとなっている。また、選手も手話応援デーTシャツを身に着けてピッチへ入場する。毎日興業株式会社の田部井様へ、地元経済会代表から「アルディージャのために何かしてほしい」と声がかかり、ノーマライゼーションの普及を目的としてみんなで一体となって応援できる企画を考案し実現した。

活動場所 : NACK5スタジアム大宮

取組テーマ : ダイバーシティ（共生社会）

協働者 : 企業／NPO／住民／学校／行政／メディア

協働者名 : 手話応援実行委員会（事務局：毎日興業株式会社）、実行委員会、後援団体等、計約80社/団体

活動で工夫した点

スタンドでの手話応援だけでなく、啓発ブース、手話体験ブース、聴導犬PRブースなどを通して、スタジアム全体が手話応援に関われる仕組みづくりをしている。そのほか、オリジナル手話応援デーTシャツ「愛してるぜTシャツ」の配布（約2,000枚/年）や手話応援エリアに多くの手話応援デーフラッグを掲出し、スタジアムへの初来場者でも理解できるように広報活動を強化した。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

初めて実施した2006シーズンでは、サポーターとの事前連携がなかったため、全体の応援統制を乱してしまい、中断を余儀なくされた。しかし、諦めずサポーターに掛け合うことで、実行委員会とサポーター代表も交えて協議した結果、2010シーズンに再開することが出来た。現在では、サポーターからの認知・理解も深まり、サポーターが手話応援をリードして自発的に参加してくれている。

クラブや地域の活動後の変化

2006年に80人の有志で始まった手話応援であるが、回を重ねるごとに賛同者が増えた。手話応援実行委員会という形で組織化もされ、参加者も年々増えている。その結果、各企業や団体からの興味や関心が増し、メディアへの露出も増えた。そのような各メディアも含め現在では協力企業や団体は約80社/団体となり、クラブの代名詞的な社会連携活動となっている。



協働者の声

手話応援実行委員会委員長（毎日興業株式会社代表取締役会長）男澤 望さまの声：手話応援は、障がいのある人となない人が一緒になって作り上げているところに良さがあると思います。スペシャルオリンピックで「ユニファイド」障がいのある人となない人が一緒にスポーツを楽しむことを進めています、手話応援もその域に達して来ているように思います。実際、試合後、「ありがとうございます」の声、ハイタッチ、握手の多さで感じました。引き続き「愛してるぜ！」の手話を広め、心優しい社会を作っていきます。

参加者の声

参加者（地元小学生／聴覚障がい者）の声：手話応援をきっかけに初めてサッカーを見に来たけれど、手話応援はとても楽しかった。スタジアムのごはんもおいしかった。手話体験コーナーでは、みんなが手話を覚えようとしていて、とてもうれしかった。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

手話応援デーは、ダイバーシティ（共生社会）を旨とする社会づくりにおいて、障がいのある人もない人も、みんなと一緒にスポーツを応援するための社会連携活動のモデルケースであると考えています。

補足

多くの人や団体に賛同頂き、計12回で累計約13,000人が参加。活動当初に大宮ろう学園に通っていた生徒が、今では成人して実行委員に参画するなど、長く継続してきた成果となっています。埼玉県知的障がい者サッカー大会の開催（通算13回目）や、大宮ろう学園への選手訪問（11年連続）など、手話応援デーをきっかけとして様々な活動の実現にも派生し、すべてが1本の線で繋がっています。今年は、5月30日実施予定。